

*****令和6年度宇城支部の取り組み*****

記録者：永尾 綾子（宇城市立松橋小学校）

1 研究テーマ

児童が思いや考えを伝えたいと思うコミュニケーション活動の充実
～ “相手意識” と “必然性” の分析を通して～

2 テーマ設定の理由

授業における言語活動の充実を考えた場合、児童が「伝えたい」と思う活動を設定することが教師にとって最大の命題であると言える。目的・場面・状況に応じて自分の考えを形成したり再構築したりすることを絶えず授業内で展開し、児童のコミュニケーション能力を高める言語活動の質の向上を目指すには、「相手（他者）に配慮する」「活動の必然性」が活動のバックボーンとなる。そこで、相手意識と必然性に焦点を当て、その具体を本部会において追究し、授業改善に反映させることが必要であると考えた。

3 研究のあゆみ

期日	内容
R6. 5. 2	第1回教科等研究会（研究主題・年間計画の決定、研究委員の選出等）
R6. 7. 4	第1回研究委員会（第2回教科等研究会についての検討）
R6. 7. 29	第2回教科等研究会（講話、演習等）
R6. 10. 18	第2回研究委員会（第3回教科等研究会についての検討）
R6. 11. 11	第3回教科等研究会（授業研究会、研究主題についての協議）

4 実践内容

(1) 第2回教科等研究会

- ① 研修Ⅰ 講話「“相手意識”と“必然性”を意識したコミュニケーション活動について」
講師 宇城教育事務所 若山竜介 指導主事
- ② 研修Ⅱ 演習「単元指導計画づくり（5・6年）」

【講話】

目的・場面・状況等を設定する際に、下記の3段階で整理することを提示していただいた。

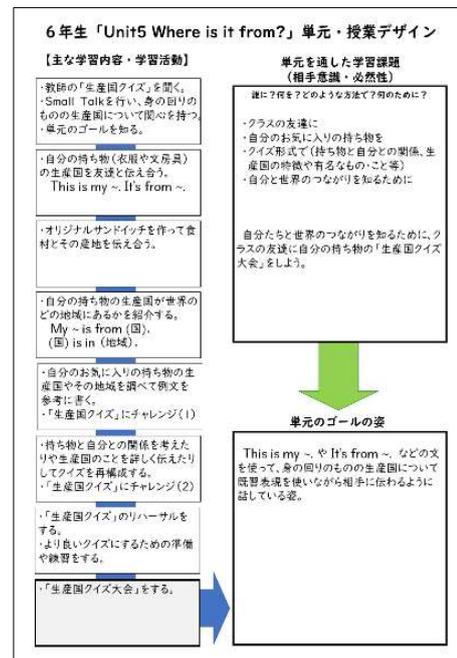
① 情報格差によるコミュニケーションの必然性を児童に感じさせるもの
(例：レストランの店員と客)

② 互いの気持ちや考え方の違いを「どうしても話したい」「聞きたい」と思わせるもの
(例：パーティーの計画)

③ 英語使用の必然性があるもの（本物の経験）
どの段階にも「相手意識」を持たせられるが、中には練習に近いレベルになることがあり、幅が大きいことに注意すること、また、①・②の指導を普段から積み上げていくことの大切さを話された。

【演習】

講話で学んだ理論をもとに、小グループによる単元の計画づくりをした。その際、「相手意識（誰に？何を？どのような方法で？何のために？）」の枠を設けたワークシートを使用した。



(2) 第3回教科等研究会

○ 授業研究会

5年 単元名 Lesson 5 What do you like?
 授業者 上田雅人 教諭 (宇土市立宇土小学校)
 助言者 宇城教育事務所 若山竜介 指導主事



授業の実際は、以下のとおりである。

目 標	お互いのことをよく知るために、宇土市のお気に入りの場所について伝え合うことができる。
学習活動	
<p>1 復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Chant(施設・建物) ・ Small Talk (What ○○ do you like?) * Small Talk の際に、リアクションワードを確認する。 <p>2 本時のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> クラスの友達と宇土市のお気に入りの場所について伝え合い、道案内をしよう。 </div>	<p>○Warm-up で天気についての応答の後、ALT から「天気だからピクニックに行きたいな。みんなは？」と投げかけていました。“相手意識”と“必然性”の仕掛けの一つです。</p> <p>○Small Talk でも、ラグビーのボール等の実物を見せながらデモンストレーションを行いました。「“相手”に分かってもらうためには？」と方向付けていきました。</p>
<p>ALT が本物の地図を使って道案内のデモンストレーションをしました。子ども達は「どこに行くのだろうか？」とすっかり夢中になりました。</p> <p>好きな理由について、耳で聞き、掲示された写真で確認して、さらに笑顔になりました。</p>	
<p>3 Activity 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現の確認 ・ 自分の選んだ場所のお気に入りの理由を考える。 	
<p>4 Activity 2</p> <p>グループで自分のお気に入りの場所を道案内し、好きな理由を伝える。</p>	
<p>5 Activity 3</p> <p>全体で発表する。 (代表児童に、“Do you like...?”等の質問をする。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板に掲示された地図と同寸大の地図と、地図上で動かすための動物の人形が各班に配られ、活発な活動が始まりました。 ・ 慣れない表現があっても、分かってもらいたい一心で伝えていました。 ・ 聞き手は、分からなかったところを質問したり、リアクションワードを返したりしていました。
<p>6 学習の振り返りをする。</p>	

「授業者より」

- ・ 宇土市の実際のマップを使って活動することで、子どもたちの本当の気持ちを話せるようにした。
- ・ 「お互いのことを知るために」というフレーズから、みんなが知らない場所を選んでくれた児童もいた。
- ・ 伝えたい場所まで行ったら、そこがどこなのかを当ててもらい、正解を確認するような会話をさせたかったが、そこまでできなかった。

「参加者より」

- ・ 聞き手が大切な言葉を聞き返すなどしていた。聞く側の反応がよかった。
- ・ 自信を持って会話をしている児童がたくさんいた。とても活発に話していた。
- ・ リアルマップを使ったため、逆に表現することの難しさが出たところもあった。

「指導・助言より」

- ・ 本時は、第1段階は「行ってみたいと思ってもらえるように」という“相手意識”、第2段階では、“情報格差”がある状況で「行ってみたい。情報が欲しい、」という“目的意識”、及び「分かりやすく伝えて相手の役に立ちたい」という“相手意識”が生まれ、“必然性”のあるコミュニケーション活動が成立した。
- ・ 言語活動の前に、子どもには「目的・場面・状況」を理解させ、コミュニケーションの見通しを立てさせておく。その指導があつて初めて、中間指導で「今回の目的～～を考えると、○○を使って、△△を伝えるのがいいね。」と押さえることができる。(Do-Learn-Do Again)
- ・ 目標の設定(目的、場面、状況等)次第では、I主語ばかりではなく、“You can....”、“We can....”と表現する必要も出てくる。
- ・ Small Talk や Teacher Talk では、子どもにどんなことを気付かせたいのか、モデルを聞かせた後子どもを巻き込むためにどのように問いかけるのか等を考えていく。